

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

eed



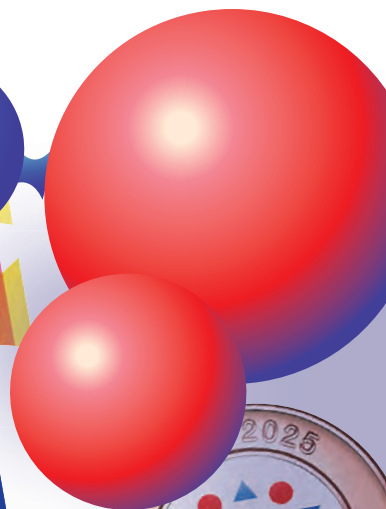
No. 81

June, 2025

関西大学ニュースレター

発行日：2025年(令和7年)6月27日
発行：関西大学 総合企画室広報課
大阪府吹田市山手町3-3-35
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121
www.kansai-u.ac.jp

博
O
E
TY E



関大旋風 in
大阪・関西万博
万博をつくるのは、
関大だ。



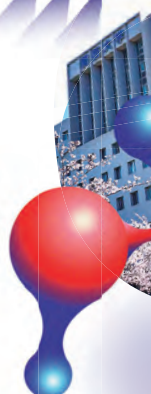
関大万博
GOTO
2025
KANSAI UNIVERSITY EXPO



関大旋風 in
大阪・関西万博
～万博をつくるのは、
関大だ。～



関大万博
GOTO



■大阪・関西万博特集



関大旋風 in 大阪・関西万博 ～万博をつくるのは、関大だ。～

2025年大阪・関西万博は、「未来社会の実験場」として世界が注目する舞台。関西大学は「未来を担う学生と万博の関わりしろ」を最大化するべく、多角的な取り組みを展開している。

夢洲の会場では、産学連携による「関西大学リボンチャレンジ」の展覧や、学生主役のパフォーマンスショー、共創チャレンジの成果発表などの11のイベント「夢洲関大Days」を実施。さらに、キャンパス内でも「関大万博Weeks」と題して、学生団体「関大万博部」を中心に、万博に向けた機運醸成や地域連携を目的とした独自イベントを開催している。

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に向けて、教育機関としての知と人を結集しながら、学内外を巻き込んだ挑戦を続けている。夢洲とキャンパスから広がる、若い力のうねり——関大旋風が今、巻き起こる。



オール関大で取り組む未来イノベーション ●副学長 長岡 康夫



関西大学は「学の実化」を学是に掲げ、「大学は教育研究に実社会の知識や経験を取り入れ、社会は大学の学術研究の成果を取り入れる『学理と実際の調和』を求める考え方」のもとに、教育、研究、社会連携活動を展開しています。

大阪に生まれ、大阪と共に成長してきた関西大学では、大阪・関西万博を大学の教育・研究の成果を発信できる機会として、また約51万人の卒業生とのエンゲージメントを創出する場でもあると捉え、2022年6月に「大阪・関西万博プロジェクト」を設置し、万博に関連したさまざまな取り組みを推進しています。

8月に大阪ヘルスケアパビリオンで開催される「関

西大学リボンチャレンジ」では、大阪が誇る中小・スタートアップ企業の技術等を発信する展示企画を実施予定で、実施主体のうち本学が唯一、教育機関として選定されました。

また、未来社会の主役を担う若い世代に、大阪・関西万博に主体的にかかわってほしいとの思いから、学生団体「関大万博部」の活動をはじめ、「TEAM EXPO 2025」共創パートナーへの参画など、学生・生徒たちによるチャレンジを学園全体で支援しています。

万博会場に撒かれた未来イノベーションの種をもとに、いつか万博を経験した若者たちが花を咲かせ、世の中の暮らしを豊かにしてくれることを期待しています。

関大万博 GOTO 2025 オフィシャルグッズ & ノベルティ & オリジナルグルメ紹介

関大万博オフィシャルグッズ

関大バンセ公式ECサイト
「カンダイバンセマルシェ」にて販売中！



① 関大万博マフラータオル / ¥1,250 (税込)

② 関大万博リサイクル金メッキしおり / ¥1,200 (税込)

③ 関大万博金属レリーフキーホルダー / ¥1,200 (税込)

④ 関大万博アクリルキーホルダー / ¥1,000 (税込)



⑤ ポロシャツ
¥3,300 (税込)

吸汗速乾のドライ素材で、着心地抜群！
万博会場やキャンパスでみんなでおソロしませんか？

⑥ 晴雨兼用折りたたみ傘
「Kind Umbrella」 / ¥3,960 (税込)

廃棄ペットボトルを活用！関大万博部が
考案した地球に優しいUmbrella！

万博イベントで手に入れよう！ノベルティグッズ

キャンパスなどで行われる万博イベントで、プレゼント企画を実施しています！



⑦ 缶バッジ
「関大万博」「関大万博部」
のロゴの缶バッジ！
10年後にはプレミアが
つくかも……？



⑧ コースター
関杯コーラ&ビールのお供に！乾杯を盛り上げる
オリジナルコースター！

⑨ おばちゃんシール
大阪のおばちゃんと関大万
博部のコラボシール！関大
万博部の各チームの特徴を
イラストで表現しているよ！



⑩ キーホルダー
雨上がりの虹に思いを乗
せて。Kind Umbrellaに
付けたいすくチャーム！



⑪ スタンプ帳
関大生なら携帯必須！？
万博でスタンプラリーを
楽しむためのマストアイテム！

「夢洲関大Days」&
「関大万博Weeks」で
ゲットできる関大万博
オリジナルスタンプも♪

関大万博部発！オリジナルグルメ



「関杯」シリーズ
クラフトビール&クラフトコーラ

「関杯(かんぱい)」シリーズは、
学生の思いが詰まったオリジナル
のクラフトビール(左)とクラ
フトコーラ(右)です。
ビールはキャンパスで育てた
ホップを使用し、軽やかで飲
みやすい風味に仕上げました。
コーラは地元産の柑橘類にス
パイスを加え、爽快で体に優しい
味わいが特徴です。

アドボ井&ハワイアンロコモコ丼



▲アドボ井
(フィリピン風の
甘酢煮丼)

ハワイアンロコモコ丼▶

世界の食を再現した「大阪・関西万博 開催記念メニュー」
を関西大学生協と共同で開発！万博が開幕した4月か
ら5月にかけて千里山キャンパスの食堂で提供され、異
文化の味を気軽に楽しめると好評でした。6～7月はこ
の2つのメニューに加えて、ガバオ丼(タイ)、ジャーク
チキン丼(ジャマイカ)、タンドリーチキン丼(インド)、
チキンシャルマ風丼(トルコ)、ブルコギ丼(韓国)、メ
キシカンタコス丼など各国のグルメが勢揃い！

関大万博部 ～人と文化が繋がるサステナブルな未来の食工房～

ここで紹介したクラフトコーラの試飲だけでなく、学生によるクラフトコーラづくりのワーク
ショップや、非常食アレンジメニューの試食など、見て、学んで、味わえる、関西大学ならで
はの食の体験イベントです！

■日時 9月14日(日)～9月20日(土) 10:00～16:00

■会場 大阪ヘルスケアパビリオン デモキッチンエリア

■内容 ① 未来の私たちへ ～非常食弁当～

非常食のアレンジメニュー試食とレシピ提供

② 関杯プロジェクト ～関大クラフトコーラプロジェクト～

コーラづくりのワークショップと試飲提供

ほか

■大阪・関西万博特集

EXPO Schedule



関大万博 夢洲関大Days

プロジェクト進行中！ 8 関大万博Weeks

夢洲関大Days

4.26 sat

▶ TEAM EXPO パビリオン

関西SDGsプラットフォーム大学分科会
ユース万博「SDGs+Beyond アクション・ビジョンピッチ・プレゼン」



関西の10以上の大学が参加。関西大学からは関大万博部とSDGsキャンパスサポーターの学生が「いのち輝く未来社会」の実現に向けた活動内容を発表。

4.30 wed ~ 5.3 sat

▶ EXPO メッセ「WASSE」

「阿波の国とくしま つむぐCAFE」
ブース出展



徳島県主催「阿波の国とくしま つむぐCAFE」にて、関大クラフトコーラ「關杯」を販売！クラフトコーラには本学SDGsパートナーの徳島県産のすだちを使用。関大万博部によるクラフトコーラづくりワークショップやステージ発表も実施。

5.1 thu ~ 5.21 wed

▶ サステナブルフードコート

「関大グルメスイーツウィーク」



万博会場最大級のフードコート「大阪のれんめぐり〜食と祭EXPO〜」において、関大万博部の非常食アレンジレシピをヒントに白ハト食品工業が開発した「かんらぼサンド」を販売！関大卒人気グルメフェアやグッズ販売なども実施。

6.8 sun

▶ 大阪ヘルスケアパビリオン 屋外「リボーンステージ」

100年後の未来演劇&未来を切り拓くカタナ発表



演劇研究部「学窓座」が、リボーンチャレンジ出展企業の未来技術によって創り出される「100年後の未来」をテーマに演劇を披露。関西大学北陽高等学校の産学連携によるSDGs学習の成果発表も実施。

6.29 sun

▶ TEAM EXPO パビリオン

「健康・ウェルビーイング」
5大学連携 共創チャレンジ発表&展示

5つの大学による「健康・ウェルビーイング」の推進を目指す共創活動。本学からは人間健康学部・彦次佳ゼミが、「人と食の交流」を促す活動の成果発表を行う。

7.2 wed ~ 7.6 sun

▶ EXPO メッセ「WASSE」

第3回「日本国際芸術祭」
ブース出展

夢洲新産業・都市創造機構が主催する「日本国際芸術祭」にブース出展。SDGsやウェルビーイング、地域連携活動に関するポスター発表等を行う。

8.5 tue ~ 8.11 mon

▶ 大阪ヘルスケアパビリオン
リボーンチャレンジエリア

関西大学リボーンチャレンジ
「Academia × REBORN ~学理と実際との調和~」

大阪が誇る中小・スタートアップ企業の技術等を発信する展示企画。実施主体のうち、関西大学は唯一教育機関として選定。産学連携による未来イノベーションの可能性に迫る！

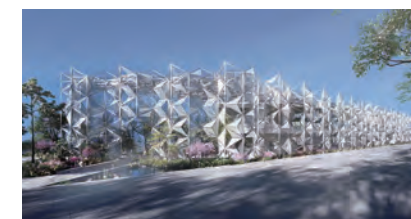


8.9 sat

▶ ウーマンズパビリオン 2階「WA」スペース

関西・法政・明治大学連携 合同シンポジウム
「真のダイバーシティとWA!?!」

「KUダイバーシティ Day」と称し、大学キャンパスを舞台とした「真のダイバーシティ」について考えるシンポジウム。参加型の寄せ書き企画なども実施予定。



8.31 sun

▶ 「電力館 可能性のタマゴたち」屋外ステージ

未来エネルギー全開！
学生パフォーマンスショー

10以上の大学生団体とキッズチアによるエネルギーパフォーマンスを実施。ダンスや演舞のほか、伝統芸能や武道など日本文化を感じられるものも。



9.6 sat

▶ TEAM EXPO パビリオン

「TEAM EXPO」
関大共創チャレンジの輪

学内外の共創チャレンジの成果発表。パビリオン全棟を貸し切り、ポスター展およびステージ発表を実施。他大学や併設校も含む約20団体が出場予定。



9.14 sun ~ 9.20 sat

▶ 大阪ヘルスケアパビリオン
デモキッチンエリア

関大万博部
〜人と文化が繋がるサステナブルな未来の食工房〜

関大万博部が開発したオリジナルの食コンテンツを活用した交流企画。非常食アレンジレシピの試食やクラフトコーラづくりワークショップなどを行う。

関大万博Weeks

4.6 sun

▶ 千里山キャンパス

校友会ホームカミングデー
〜2025スプリングフェスティバル〜
ブース出展

関大万博部による関大クラフトコーラ「關杯」の販売&ワークショップや非常食アレンジレシピの試食などを実施。



5.25 sun / 6.22 sun

▶ 高槻キャンパス
▶ 高槻ミューズキャンパス
▶ 堺キャンパス

高槻キャンパス祭(5/25)
高槻ミューズキャンパス祭(6/22)
堺キャンパス祭(6/22)

関大万博部が万博PRブースを設置するほか、エモジケーション&国際交流企画、クラフトコーラの販売や非常食アレンジレシピの紹介などを実施。



6.30 mon ~ 7.6 sun

▶ 千里山キャンパス

関大万博フェスタ ~巡縁祭~

関大万博部の活動の集大成として、万博版学園祭を開催！エモジ謎解き企画やミニ外国パビリオンでの多文化交流、クラフトコーラ&ビールの販売など、万博をきっかけにつながった縁で、キャンパス内を万博一色に染める！



11月下旬 ~ 12月上旬 (予定)

▶ 千里山キャンパス

関大万博フェスタ ~レガシー編~

関大生が万博で何をしたのか、夢洲でどんな経験をしたのか。未来に文化を繋ぐ、語り部となってさまざまな振り返り企画を実施する。実際に夢洲で発表・展示した中小企業の未来技術も見られるかも。

特別企画

4.6 sun ~ 10.13 mon

▶ 千里山キャンパス博物館

年史資料展示室企画展
「関大1970 万博のころを振り返る」

1970年万博の時代にタイムスリップ！大学紛争を経て大きく変化した関西大学と、千里ニュータウンの開発などにより大きな変貌を遂げた周辺地域の変遷をたどる。



■大阪・関西万博特集

Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan

夢洲関大 Days & 関大万博 Weeks

※イベントの時間帯や参加団体・出展内容等は変更になる可能性があります。詳細は関大万博特設サイトでご確認ください。

PICKUP
EVENTS

夢洲関大 Days

1 未来エネルギー全開！学生パフォーマンスショー

10以上の関西大学課外活動団体とキッズチアが、万博会場のステージでパフォーマンスを実施。ダンス・演舞のほか伝統芸能や武道などを披露し、日本文化・学生文化とエンターテインメントの魅力を世界に伝えます。

■日時 8月31日(日)10:30～15:20 司会・放送研究会(KBC)

10:30～12:25 関西大学応援団、カイザーズクラブチア・初等部ミューズっ子クラブチア、相撲部、合気道部、書道部

13:30～15:20 ダブルダッチ会 mixpackage、大道芸サークル ジャグリマ専科、吟詩部、お笑いサークル 関大ストラット、アカペラサークル Brooklyn304

■会場 「電力館 可能性のタマゴたち」屋外ステージ



2 「TEAM EXPO」関大共創チャレンジの輪

～Z世代が世界に発信する理想の未来社会&SDGs達成のタネ～

関西大学初等部・中等部、法政大学との共催で、関大万博部をはじめ約20団体が参加する共創チャレンジの成果発表イベント。「関西大学Day」としてTEAM EXPOパビリオン全棟を貸し切り、未来社会・SDGsをテーマにしたポスター展およびステージ発表を実施します。

■日時 9月6日(土)

10:00～13:00 展示(第1部) 初等部・中等部の部

13:45～17:45 展示(第2部) 大学生の部

10:30～18:00 ステージ発表

■会場 TEAM EXPOパビリオン TE1～4展示棟およびTEステージ



関大マイボトルアンバサダー「ECOひいきプロジェクト」

団体	発表タイトル
関大万博部	人の輪を創る、新たな世界共通言語 エモジケーションプロジェクト！
	未来の私たちへ～非常食を活用したオリジナルアレンジ弁当～
	さぁ繋がろう、希望の明日へ！ 「関大クラフトコラボプロジェクト」
	関大EXPO食堂～学食でオリジナル万博メニューを！～
	大学ならではの国際交流・文化イベントで 日本にしながら世界を体験！
	Children, be ambitious. ～ココロおどるミライへ～
法政大学・佐野電平ゼミ	オリジナルグッズで万博機運醸成を！
	夢洲関大Days&関大万博Weeks
	Inclusive Sports Project
	Z世代が育てる地域連携の未来へのタネ ～大阪府岸和田市との連携事業を通じて～
	企業のSDGsへの貢献
	「防災の輪」プロジェクト ～みんなで防災・減災を考えよう！～
社会安全学部・高野一彦ゼミ	精神疾患の親を持つ子供・若者への支援団体 「COCOTEL」の活動報告(仮)
	SDGsキャンパスサポーター
	SDGsキャンパスサポーターの挑戦～学生のチカラで未来をつくる～
	関大マイボトルアンバサダー 「ECOひいきプロジェクト」
	マイボトルの輪を広げよう！ 「関大マイボトルECOひいきプロジェクト」(仮)
	学生団体 Your Voice Lounge
関大アライ会	LGBTQ+キャンパスプロジェクト～声を届け、未来を創る～
	LGBTQ+Friendly Campus Project
	①Japanese Culture Festival ②未来へつなぐ 共創制服ファッションショー ほか
	①Hokuyo Express Logistics ②企×学協働プロジェクト「刀」～TERAMOTO～
	関西大学 初等部・中等部
	関西大学北陽高等学校

3 関大万博部 ～人と文化が繋がるサステナブルな未来の食工房～

※イベント詳細は、本誌2ページに掲載しています。



関大万博 Weeks

関大万博フェスタ ～巡縁祭～

大阪・関西万博の機運醸成、地域と万博を繋ぐことを目的とした独自イベント。関大万博部が運営の中心となり、他大学や企業、自治体など、産学官連携でキャンパス内に万博空間を創り上げます。

■日時 7月6日(日) 11:00～15:00

※6月30日(月)～7月4日(金)は在学生限定のイベントを実施

■会場 関西大学千里山キャンパス



■イベントプログラム

団体	イベント名	
関大万博部 ワクワク体験	エモジで縁結び！	クラフトコーラづくり！
	ミニ外国パビリオン！	大人のお悩み相談！子どもBar
	みんなで作る非常食レシビ！	KUDF試食会！～知ろう、食の多様性～
関大ミニリボンチャレンジ展	レンジでチン！で生まれる「人工ルビー」	
	自動運転レーシングでタイムアタック！	
KANDAI RAINBOW DAY	多様なジェンダーや家族を描いた絵本コーナー	
	“あなたらしさ”をかたちにする缶バッチづくり	
	「好き」な服と出会える「My Closet」ほか	
企業・自治体ブース	英語レベルチェック&異文化体験♪	
	電気自動車で未来生活体験！	
	一服のお茶がもたらす「健康」体験！	
	「LinkLink」の未来おもちゃ体験！ほか	
体操・スポーツ体験	ラジねえ。の全力でラジオ体操！吹田市「すいたん」と一緒に楽しもう！	
	カイザーズクラブのスポーツスクール体験！大学生とスポーツを楽しもう！	
世界のグルメキッチンカー	非常食アレンジレシビや大阪湾漁れたて海鮮丼、関大クラフトコーラ&ビール ほか	
音楽・ダンスショー	応援団・チア演舞、吹奏楽生演奏	
	ダブルダッチ ほか	
未来科学実験教室	瞳で気持ちを伝えるコミュニケーションロボット実験！	
	ビーズを使って水のろ過実験！これでキミも水博士だ！	
スタンブラリーガチャ	関大万博オリジナルグッズ(全7種)が必ず当たる！万博を知ってスタンプを集めよう！関大でしかゲットできないレアアイテムも♪	

関大万博部



2023年に発足した大学公認の学生コミュニティで、約140人の学生が所属。9つのプロジェクトに分かれ、SDGs推進など日々の学びをベースに、未来社会のデザインなど万博におけるユニークな企画づくりに挑戦しています。

関大万博部の詳細はこちら▶



万博の主役は
関大生だ！

■大阪・関西万博特集

A ●大阪冶金興業株式会社
最先端の材料加工技術から生まれた「人工ルビー」・「関大合金」

産学連携の研究成果として、次世代加熱技術「ミリ波照射」で製造した、本物と同じ結晶構造を持つ人工ルビー製の「茶道具」を展示し、「日本の和」と「次世代技術」の融合を表現します。また、極低温に強い先端材料である「関大合金シリコイ」を活用した、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する技術についても紹介します。



B ●株式会社ナノスパイク
革新的な抗菌技術「ナノスパイク」

新素材「ナノスパイク」はナノレベルの突起物で構成されており、物理的に殺菌・抗菌できることから、化学物質を使わない抗菌材や撥水素材として利用することができます。従来の化学的作用による抗菌剤や抗生剤は環境への負荷、人体への悪影響リスクなどの課題がありましたが、「ナノスパイク」はそれらのデメリットを克服する革新的な素材です。この新しい抗菌技術により、感染症のない豊かな社会の実現を目指します。万博では、「ナノスパイク」を搭載した樹脂フィルムを展示します。



C ●Virtual Motorsport Lab Inc.
自動運転レースを通じてAI・モビリティ技術を学べる！

Virtual Motorsport Lab (略称VML)は国内外からオンラインで参加可能な自動運転レースを、万博出展と連携して開催します。参加者は自動運転レースの開発競争を通じて、AIやモビリティ技術を楽しみながら実践的に学ぶことが可能です。また、来場者には関西大学総合情報学部堀口由貴男研究室の協力のもと、音声制御を使って仮想空間での自動運転レーシングカーを操作、開発体験できる機会を提供します。オンラインとオフラインの双方で先端テクノロジーに触れることを通じて、未来のモビリティ社会を支える人材の育成と技術革新を加速させます。



D ●株式会社アックスヤマザキ
家庭でも立体物を縫える！未来型ミシン

トヨタ車体の特許技術「タグステッチ技術」を活用した、従来の家庭用ミシンでは縫うことができなかった立体物を縫製できる「MIRAI ミシン」を紹介します。自動車用内装部品に直接加飾縫製を施すこの技術の利点に着目し、ソファなどの立体物への直接縫製を可能にします。宇宙服を着ながらでも破れたところを自分で直接補修できる、そんな未来を創造します。



E ●株式会社アイ・エレクトロライト
サーキュラーエコノミー電池で実現する、持続可能な社会

会場では、開発中の「IL (イオン液体) 電池」について、液が蒸発しないため炎近づけても燃えない安全性や、宇宙空間などの特殊環境下での実用性を、オリジナルキャラクター「IL 電池兄弟」が楽しく紹介します。また、天然素材を活用した部材や環境負荷を低減する製造技術により、電池を廃棄することなく再生可能なものにするサーキュラーエコノミーバッテリーの実現に向けた取り組みについても展示します。



F ●株式会社イノカ
AIと再生医療技術で未来の海を守る「サンゴ礁再生の新たな挑戦」

環境移転技術は、AIやIoTを活用して多様な生態系を水槽内に再現する革新的な技術です。これに再生医療から着想を得た「チタン」の増殖基盤を組み合わせることで、サンゴの効率的な増殖を実現します。会場では、自然の海をそのまま切り取ったような生態系水槽を展示し、この技術が海洋環境の保全や未来の地球環境にどのように貢献できるかを伝えます。また、ブルーカーボンを活用したカーボンニュートラルへの挑戦についても紹介します。



大阪ヘルスケアパビリオン 関西大学リボンチャレンジ
Academia × REBORN
～学理と実際との調和～

[8.5 tue ~ 8.11 mon] 大阪が誇る中小・スタートアップ企業の技術等を発信する展示企画「リボンチャレンジ」に、関西大学が実施主体として出展する。テーマは「大学×企業が生み出すイノベーションの可能性」。SDGsやカーボンニュートラルをキーワードに、最先端の研究力と企業の技術力の融合によって描き出される「100年後の未来」が表現される。企業のみならず、学生の参画や校友との連携によって創り出される関大ならではの展示空間が注目ポイントとなっている。

紹介動画はこちら



G ●Cranebio 株式会社
50年後の医療の進化を牽引するDNAオリガミノロボット

病原体の早期発見や治療に役立つさまざまな可能性を秘めた「DNAオリガミノロボット」。このナノロボット技術により、専門的な知識や高価な機器がなくても、誰でも手軽に病気の検査ができる未来を目指しています。万博では、DNA分子を折りたたんで極小サイズ(髪の毛の太さの1/500程度)の構造体を作り出すDNAオリガミ技術で作成した、目視できないほど小さい「DNAオリガミノロボット」の展示を通じ、細菌やウイルスの検出を行う未来の医療技術を来場者に紹介します。



H ●株式会社 KUREi
「凍る」をコントロールする未来の技術

「道路が凍って滑る」「信号・看板に雪が付着して見えない」「遅霜の影響で花から果実に育たない」といった凍結にかかわるさまざまな寒冷地の課題は、氷結晶を小さくすることで解消するかもしれません。展示では、氷核の発生から氷結晶の成長までの過程を制御する「氷結晶制御機能」によって「凍る」をコントロールする技術で、未来の凍結に困らない寒冷地対策を紹介します。



I ●株式会社ゴエンジン
大阪・関西の飲食店とムスリム観光客をつなぐ

「食い倒れの町」や「天下の台所」として知られる大阪や関西エリアは、食文化の魅力が集まる場所ですが、ムスリム(イスラム教徒)の方々にとっては、配慮や情報が不足しており、観光や食事において制約を感じることがあります。大阪・関西をムスリムの方々にとっても魅力的な街にしたいと考え、本展示では、万博に訪れるムスリムの方向けに、食品サンプルやオリジナルキャラクター「サクラフィカ」を使い、関西の魅力あふれるMuslim Smileな食に関する情報を紹介します。



1 コロナ禍の象徴でもあるアクリルパーテーションが「リボンモニュメント」として再生

コロナ禍で大活躍したアクリルパーテーション。しかしその後、大量廃棄の問題が社会でも話題となりました。関西大学ではそのアクリル板に新たな命を吹き込み、別の形で光り輝かせるという「リボン(再生)」のシンボルを制作し、会場に展示します。アクリル板に熱を加えて穴をあけることで素材に生命感を宿し、未来へ続く「持続的な循環」を表現するために、地続きをイメージして球状にデザインされる予定です。加工されたアクリルアートの数についても注目ポイントとなっています。



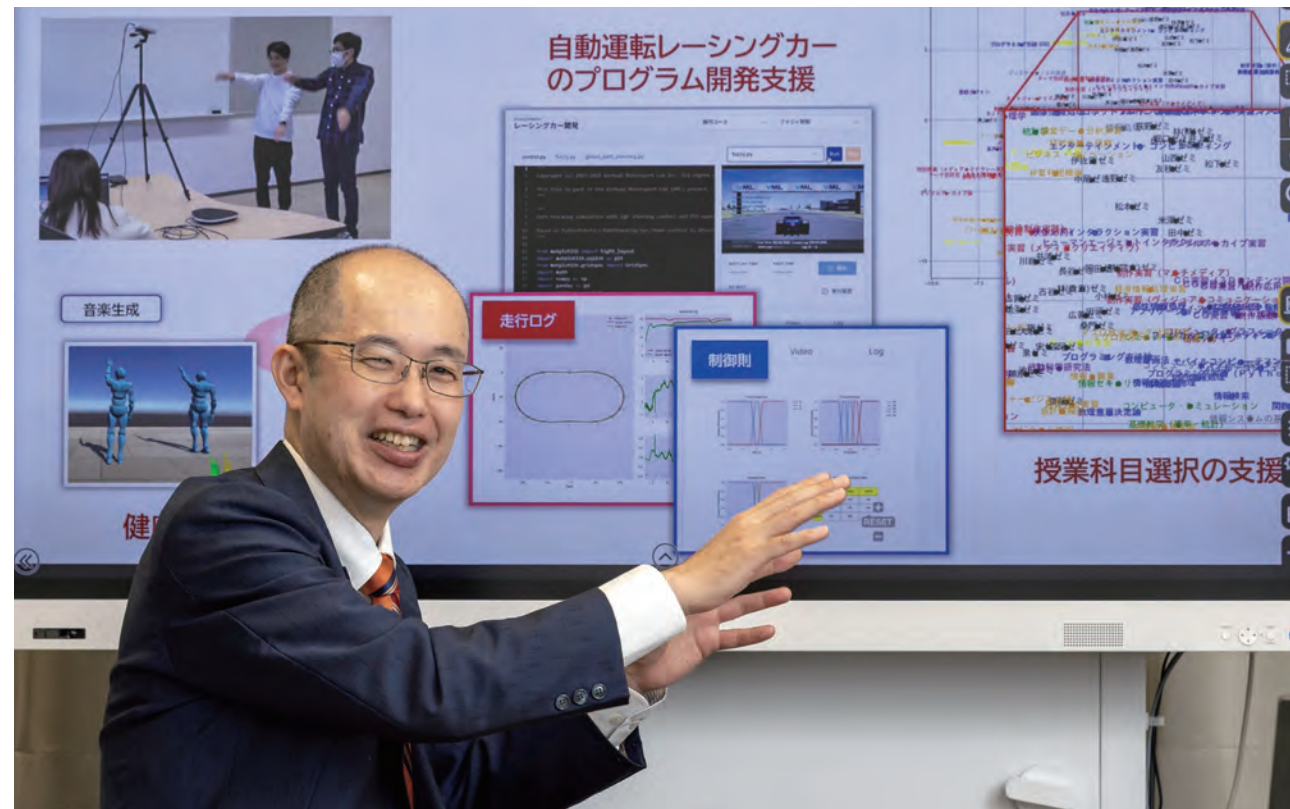
2 未来技術が創り出す100年後の世界観が4コマ漫画に！～先輩から後輩へつなぐ、未来のバトン。～

関西大学卒業生で漫画家として活躍するみづほ梨乃氏と穂積りく氏が漫画ネームを描き起こし、それを漫画同好会の学生が漫画に仕上げるという夢のコラボが実現。各企業の未来技術を題材にした「100年後の未来社会」が面白おかしく4コマ漫画で表現され、展示会場のタッチサインエージ上に映し出されます。産学連携だけでなく、「企業×学生×校友」による共創コンテンツは関大ならではの！さらに、6月8日に同パビリオン「リボンステージ」では、演劇研究部「学窓座」による関連演劇も披露されました。



■研究最前線

認知工学で人の意思決定を助ける技術を研究 • Research on technology that assists human decision-making through cognitive engineering



万博に来る子どもたちに 技術開発の楽しさと学びを

自動運転レーシングカーの開発体験を提供

Helping children visiting the Expo experience the joy and learning of technology development

Providing experience in developing autonomous racing cars

大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンでは、大阪が誇る中小・スタートアップ企業の技術を発信する展示企画「リボーンチャレンジ」が開催されている。8月5～11日には関西大学が実施主体となり、「Academia×REBORN ～学理と実際の調和～」と題して9つの企業の技術や未来社会に向けた取り組みを紹介する。その一つであるVML社(Virtual Motorsport Lab Inc.)の展示ブースでは、来場者がその場でパソコン上の自動運転シミュレータを操作して好みのレーシングカーをカスタマイズし、仮想空間のサーキットを走らせるという体験を提供。その仕掛けづくりに総合情報学部の堀口由貴男教授とゼミ生3人が協力している。8月の本番に向けて準備は佳境だ。

At the Osaka Healthcare Pavilion of the Osaka-Kansai Expo, an exhibition project called "Reborn Challenge" is being held to showcase the technologies of small and medium enterprises and start-ups that Osaka takes pride in. In August, Kansai University will serve as the implementing body, introducing the technologies and initiatives toward future society of nine companies under the theme "Academia × REBORN -Harmony between Academia & Society, between Theory & Practice-". At the exhibition booth of VML (Virtual Motorsport Lab Inc.), which is one of these companies, visitors can experience operating an autonomous driving simulator on a computer right there on the spot, customizing their preferred racing car, and running it on a virtual circuit. Professor Yukio Horiguchi from the Faculty of Informatics and three students are cooperating in creating this setup. Preparations are in full swing for the main event from August 5th to 11th.

●総合情報学部 堀口 由貴男 教授
Faculty of Informatics
— Professor Yukio Horiguchi

企業のさまざまな課題を解決するシステム工学

—先生の専門について教えてください。

現象や物事をさまざまな要素同士の関係性として捉え、数学的な理論や手法を応用して読み解き、より良い仕組みや方法を検討するのがシステム工学で、問題解決のための学問です。その中でも私は認知工学・知能情報学の専門家として、人の意思決定を助ける技術を研究しています。例えば、産業用ロボットのプログラミング熟練者の知識を他の人に活用してもらうために操作端末の情報表示のデザインを考えたり、デジタル家電のユーザーインターフェースの使いにくさの原因を調べて改善したり、列車運転士のスキル獲得支援のために運転台のデザインを見直すなど、企業のさまざまな課題に共同研究で取り組んできました。システム工学の手法で人の行動を分析し、その上で装置やサービスをより安全かつ効果的に利用できるようにするための情報デザインを研究しています。—今回万博に出展するVML社と共同研究に至った経緯を教えてください。

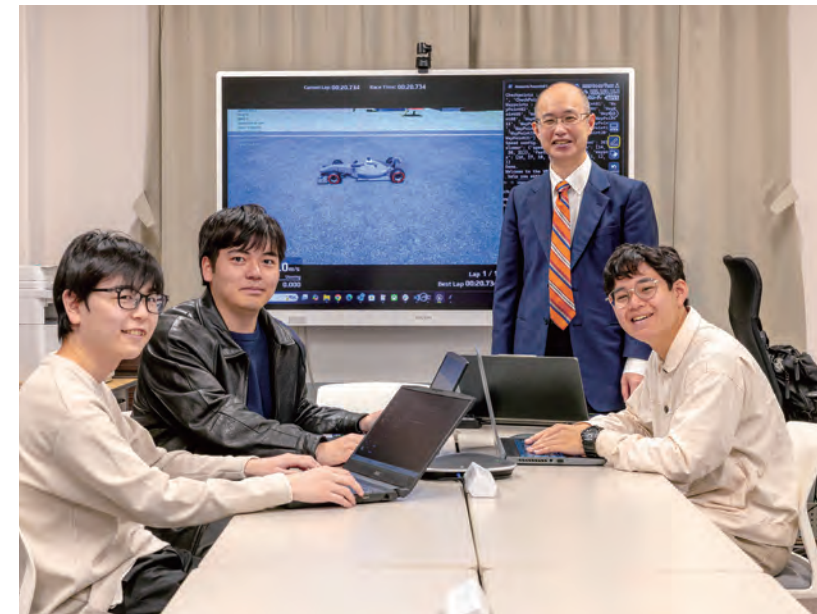
仮想空間での車の自動運転シミュレータを開発したVML社が2023年に関西大学のリボーンチャレンジに応募され、マッチングで私が連携相手には選ばれました。2022年に会社を設立した同社の山下洋樹代表は、元々ヨーロッパのフォーミュラー・レースでデータ分析エンジニアをされていました。自動車業界にも今後さらにITやコンピュータに詳しい人材が必要になると考えて、「自動運転」をキーワードに、技術開発に携わる人材を育成したい、フォーミュラー・レースのような自動車の最先端技術を開発するためのテストの場を提供したい、と仰っていました。私はそのお考えに共感し、お手伝いすることにしました。

万博でのVML社の展示が先進的な自動運転技術への興味を喚起し、人々の交流の機会を増やすきっかけとなるよう、情報デザインの観点からアイデアを提供しています。交流や学びのプラットフォームとして、より豊かな体験を提供するためにはどうすればよいかを一緒に考えています。

—具体的な展示内容を教えてください。

最終的な目標は、来場者が生成系AI技術を活用しながら独自のレーシングカーを作れるようにすることです。コース取りや速度など、車の走り方もカスタマイズします。プログラミングは一般の人にとって少しハードルが高いので、言葉でAIアシスタントに命じることで自動的にプログラムができるという仕組みを活用します。ごく短時間で自分の車のプログラムが完成し、仮想サーキットを走らせることができます。

8月の本番に向けてゼミの4年次生3人と一緒に展示内容の開発を進めており、準備は佳境に入っています。原田隼さんは来場者(ユーザー)の行動を想定したシステム応答などの対話進行のデザイン、山田晴己さんはユーザーのマルチな要求に応えるためのAIプログラムの調整、吉俣颯人さんは2人のサポートに加え、VML社に協力いただいて日本知能情報ファジィ学会で実施している「VML自動運転ハッカソン」という自動運転プログラミング競技イベントのシステムのアップグレードを担当しています。



▲研究室でゼミ生の指導にあたる堀口教授
写真左から山田さん、吉俣さん、堀口教授、原田さん
Prof. Horiguchi supervising seminar students in his laboratory
Left to right: Yamada, Yoshimata, Prof. Horiguchi, and Harada

■ Systems engineering that solves various corporate challenges

— Please tell us about your specialty.

Systems engineering is the discipline of problem-solving that captures phenomena and things as relationships between various elements, utilize mathematical theories and methods to interpret them, and examines better mechanisms and methods. Within this field, I am a specialist in cognitive engineering and intelligent informatics, researching technology that assists human decision-making. For example, I have engaged in joint research on various corporate challenges, such as designing information displays for operation terminals so that the knowledge of experts in programming industrial robots can be utilized by others, investigating the causes of user interface difficulties in digital home appliances and making improvements, and reviewing the design of driver's cabs to support skill acquisition for train operators. I analyze human behavior using systems engineering methods, and then research how to design information so that people can use equipment and services more skillfully and safely.

— Please tell us about the background that led to the joint research with VML, which is exhibiting at the Expo this time.

VML, which developed an autonomous driving simulator for cars in virtual space, applied to Kansai University's Reborn Challenge in 2023, and I was selected as their collaboration partner through matching. Hiroki Yamashita, the representative of VML, which was established in 2022, was originally a data analysis engineer in Formula racing in Europe. He said that he believed the automotive industry would need more people knowledgeable in IT and computers in the future, and wanted to nurture human resources involved in technology development with autonomous driving as a keyword, and to provide a testing ground for developing cutting-edge automotive technologies like Formula racing. I sympathized with his ideas and decided to help.

I am providing ideas from an information design perspective so that VML's exhibition at the Expo will stimulate interest in advanced autonomous driving technology and serve as a catalyst for increasing opportunities for human interaction. We are thinking together about how to provide richer experiences as a platform for interaction and learning.

■研究最前線

■言葉とコンピュータを繋ぐファジィ理論

——ハッカソンと万博では何が違うのでしょうか。

万博は一般の方々を楽しませるのが目的ですが、ハッカソンは情報処理技術やAI技術を学び研究している学生たちを主な対象とし、自動運転レーシングカーのプログラミングを通じてその技術を高めてもらうことが目的です。私は日本ファジィ学会の事業委員を務めているのですが、学会での研究者や学生、企業との交流にVML社の取り組みがうまくはまるのではないかと思います、ハッカソンを企画しました。ハッカソンは昨年に続いて2025年も実施を計画しています。

——ファジィ理論とはどのような学問でしょうか。

コンピュータは基本的に計算で問題を解決しますが、私たちが日常使っている言葉とコンピュータが扱う数値は必ずしもきれいに対応しません。その間を取り持つのがファジィ理論です。例えば自動車の運転に関して「左に少しずれたら右にハンドルを少し切る」という言語化された知識はコンピュータで扱いづらいのですが、ファジィ理論はそれをうまく繋いでくれます。ハッカソンではレーシングカーの自動運転機能の一部にファジィ制御を組み込んで、より高度な走行制御に取り組めるように工夫を凝らしています。

■ゲームでなく学びの場に

——万博での展示の工夫について教えてください。

ブースへの来場者が「いかにスムーズに面白く自動運転のカスタマイズを体験できるか」を工夫しています。大きなモニター画面でコンシェルジュやサポーター役のAIと対話しながらコースの走り

自動運転レーシングカーの開発体験と使用ツール
Hands-on experience and tools for developing autonomous racing cars

Virtual Motorsport Lab 社の開発体験イベント

- モビリティ産業を支える才能育成の場作りが目的
- 参加者は独自の自動運転プログラムを開発しラップタイムを競う

Virtual Motorsport Lab's Hands-on Development Workshop

- The goal is to create a platform for nurturing talent to support the mobility industry.
- Participants develop their autonomous driving programs and compete for lap times.

レーシングカー開発

コード編集
Code Editing

運転シミュレーション
Driving Simulation

設定の可視化
Visualization of Settings

走行ログ表示
Driving Log Visualization



方やタイヤ装備との組み合わせなどを検討し、デザインした自動運転レーシングカーをサーキットで走らせます。うまく走ったり、コースアウトしたり、自分の車の走りをその場で楽しんでもらえます。できるだけ多くの人に短時間でAI技術を体験してもらい、プログラミングの過程も分かるように見せ方も工夫します。ただのゲームではなく、子どもたちの学びの場になるようにしたいですね。子どもたちがこれをきっかけにプログラミングやAIに対する興味や、この分野に進もうという夢を持ってもらえたらうれしいです。

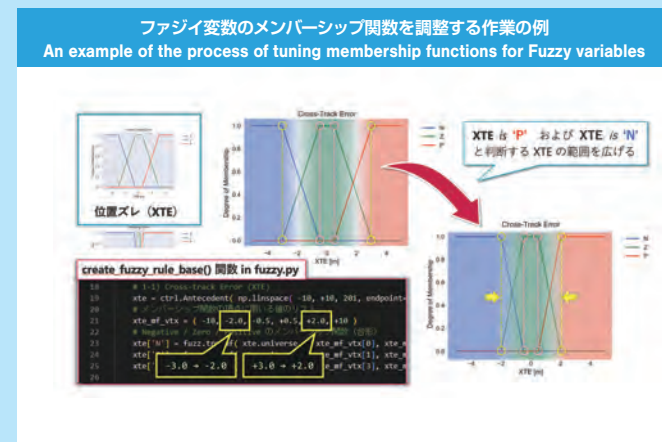
——大阪・万博への期待をお聞かせください。

来場者から「楽しい」「面白い」という反応がもらえたら最高です。総合情報学部の研究分野に興味を持ってくれる子どもや若い世代が一人でも多く出てきてくれたらいいですね。

■人の意思決定をサポートする研究を

——先生の他の研究テーマも教えてください。

システム工学は問題解決のための学問と言いましたが、ゼミの学生にはさまざまな研究テーマと一緒に取り組んでもらっています。例えば、「高齢者の動作を解析し転倒リスクや運動機能レベルを評価するデータ処理技術」「健康づくりを楽しめるように体の動きに合わせて音楽が流れる仕掛けとゲーム性を導入した運動支援」「睡眠時無呼吸を自動検出する呼吸波形解析アルゴリズム」「睡眠障害に対する効果的な質問選択による問診システム改良」「視線運動計測に基づく英語の得意な人と不得意な人の英文の読み方の比較分析と学習支援」などです。学生発案の研究では「ゼミ選択の意思決定をサポートするためのシラバスデータ分析と情報可視化」などユニークなものもあります。共通するのは人の意思決定を支援する情報処理です。人にかかわるテーマは尽きることがないですね。



LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [在学生インタビュー]



▲(左から)「学窓座」1992年公演の様子／稽古場風景／合宿での一コマ

部の、4つの学生演劇団体があります。僕たちはその中でも現代劇、特に会話劇が多いことが特徴で、普段は3〜4月に1回のペースで公演をしています」と自己紹介してくれたのは、部長の西村さん。

2024年10月に大学側からのオファーがあり、今回の万博公演が決定した。普段の公演から役者として舞台上に立っている多賀さんは「入学した時から関大が万博を盛り上げていくという話は知っていましたが、まさか演劇部に声がかかることがあるなんてとても驚きました」と万博公演が決まった時のことを話す。

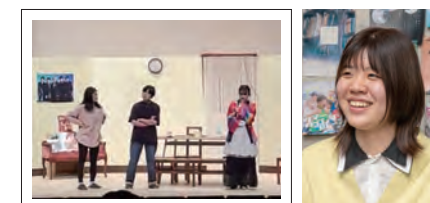
今回演出や脚本を担当し、役者として舞台上にも立った荒川さんも「自分が熱意を持ってずっと続けてきたのが演劇。その演劇で万博の舞台に立てるだなんて、こんな貴重な機会をいただけてとてもうれしかった」と喜びを見せた。



●西村和祥さん ▲中高時代(左から3人目:西村さん)

●普段の公演とは異なる特殊舞台に四苦八苦

準備は短編4作のオリジナル脚本の執筆からスタートした。いつもと違うのは「宗教上の食事制約の共有」「抗菌・殺菌素材」「凍結技術」「IL電池」といった各企業の取り組みが題材であること。企業担当者からの詳細な説明を受けて、脚本担当座員がプロットを考案、方向性を企業側と確認しながら脚本を完成させたのも今までにはない経験だった。



▲中高時代(写真中央:荒川さん)

●荒川優花さん

今回、『きみとそらへかける』の脚本を担当した荒川さんは「物語はすぐに思い浮かんだものの、題材を脚本に落とし込む時に、最初は堅苦しい説明口調になってしまいました。でも観客に誤解なく伝わるようきちんと表現したいという思いもあり悩みました」。しかし企業の担当者から「皆さんの自由な発想でやってほしい」との言葉を掛けてもらい、責任感を持ちながらも思うままに取り組むことができた話す。

普段は学内のホールなどで公演を行っているが、万博のステージは屋外ということにも頭を悩ませた。通常使用している照明などは屋外では使用できない。また壁や屋根がなく外部からの音も聞こえる状況だったため、声の届き方や反響などの予想ができず不安だったという。

さらにステージを使えるのは本番当日のみという制限もあり、舞台設営についても普段の公演のような進行スケジュール通りにはできなかった。「いつもの公演は1週間ぐらいホールを借りて、最初の4日間で設営準備、2日間公演して、1日で片づけ、というスケジュール。でも今回は本番当日にすべて行う必要があったので、舞台装置に凝り過ぎると準備が難しくなるし、悩みどころでした」(西村さん)。普段の公演とは異なる制限も多い中、大学内で

万博のステージと同じような舞台サイズの場所を借りて、設営から撤収までを含めたリハーサルを行うなどの工夫もしたのだとか。そして学窓座では毎公演前にオーディションを行っているが、今回は特別に座員以外からの参加も受け入れた。新入生や他大学の参加者たちと共に舞台上に立つことは新しい風を感じる良い経験になったようだ。

●心躍る「100年後の未来」への夢を描く

不安や懸念材料を数多く抱えた中だったが、新しい題材でこの大舞台に立った高揚感とワクワクした気持ちは、座員全員に共通するものだったようだ。

「今の時代では非現実的に思えるものがあふれているであろう100年後の未来。そんな心躍る未来を自分の演技で伝えたい!」と思って舞台上に立ちました」(多賀さん)。「企業の方々から最先端技術や研究について説明を聞いた時、そんな題材を演劇で表現できることにワクワクしました。現実的なものも非現実的なものも同じ舞台上で表現できるのが芸術の良いところ。100年後の未来はきっと今では考えられないようなことがいっぱいある、胸が高鳴るような世界になってほしいなと思います」(西村さん)。

万博会場という、いつもとは何もかもが違う大舞台に立って期待に胸膨らむ「100年後の未来」を演劇で伝えた学窓座。今回の舞台でひと回りもふた回りも成長した彼らにとって、この先ずっと忘れることのない舞台となったに違いない。



▲中高時代(最前列右端:多賀さん)

●多賀水柚さん

心躍り胸高鳴る「100年後の未来」を描いて

——大学を飛び出し、万博会場の大舞台で公演

●文化会演劇研究部「学窓座」

システム理工学部3年次生
西村 和祥 さん (大阪府 追手門学院大学前高等学校)
社会学部2年次生
荒川 優花 さん (広島県 ノートルダム清心高等学校)
文学部2年次生
多賀 水柚 さん (福岡県 九州産業大学付属九州高等学校)

●企業開発の未来技術を題材にした万博の舞台

「万博をつくるのは、関大だ。」をキャッチフレーズに、関西大学では、大阪・関西万博の会場で数々のイベントを行っている。

大阪ヘルスケアパビリオンでは、中小・スタートアップ企業の最先端技術などを発信する展示企画「リボンチャレンジ」が開催されており、8月には関西大学が実施主体として出展する。関西大学は、実施主体のうち唯一の教育機関として選定されており、「大学×企業が生み出すイノベーションの可能性」をテーマに、産学連携で「100年後の未来」を描き出す企画に期待も高まっている。

今回、8月の展示に先立ち、「100年後の未来」をテーマに出展企業が開発する技術によって創り出される世界を描いた演劇を披露したのが、文化会演劇研究部の「学窓座」だ。公演は6月8日、同パビリオン内のリボンステージで行われた。

学窓座は1946年創立、現存する関西の学生劇団の中でも屈指の歴史の長さを誇り、今春の新入生は81期だというから、その歴史の片鱗がうかがえる。現在は3年次生と2年次生がそれぞれ6人在籍しており、新入生の5人が仲間に加わった。

「関大には現在、『学園座』、『展覧劇場』、『万絵巻』、そして我が

2025年6月、大阪・関西万博のステージで公演を行った演劇研究部「学窓座」。リボンチャレンジ出展企業の最先端技術によって創り出される「100年後の未来」をテーマに、一から舞台を作り上げた。部長の西村さん、役者の多賀さん、そして脚本を書きながら役者として舞台上にも立った荒川さんに、万博公演への思いを聞いた。





万博から いもたこなんきの 未来が見える

農と食と人をつくる持続的な経営

●白ハト食品工業株式会社 代表取締役社長
永尾 俊一 さん ―法学部 1986年卒業―

「この世女の好むもの 芝居浄瑠璃 いもたこなんきん」とは、江戸時代の川柳。これにあやかって、たこ焼き、さつまいもスイーツなどの素材にこだわったおいしい商品を世に届けているのが、永尾俊一さんが社長を務める白ハト食品工業株式会社。4度目の万博参加となる大阪・関西万博でも5カ所に出店して人気を博している。

●「くくる」、らぽぽ、万博会場で大人気営業中

永尾俊一さんが社長を務める白ハト食品工業株式会社は、たこ焼きなどのタコ料理専門店「たこ家 道頓堀くくる」、さつまいもスイーツ専門店「らぽぽファーム」などのグルメブランドを全国に展開。総面積日本一のさつまいも畑を保有し、農産物の生産から加工、販売までを手掛ける。同社のウェブサイトには、“我が社の使命”として「『いもたこなんきん』の味わい、文化を、世界中の人々へ届けていく。」と掲げられている。そのミッション遂行の一環といえるだろう、世界中の人と文化が行き交う大阪・関西万博に参画。会場内5カ所に9店舗を出店している。その1つ、サステナブルフードコートの「大阪のれんめぐり〜食と祭EXPO〜」は、1日1万5,000食以上の提供が可能な万博会場最大の面積・席数を誇る飲食施設で、道頓堀を中心に大阪の12の味の銘店が集結。白ハト食品工業は「くくる」、らぽぽ」を出店するだけでなく、このフードコート全体の企画・管理運営を手掛ける。



▲エントランスに展示中の巨大ねぶたは史上初
女性ねぶた師・北村麻子さんの作品

エントランスには青森ねぶた祭りでの2024年度ねぶた大賞を受賞した巨大作品を展示し、フードコート全体に祭提灯をつるすなど、日本の祭り文化を象徴する演出を施している。

未来型チャレンジショップ

「らぽぽファーム〜おいもとイチゴとりんごのFarm to the Table〜」は、さつまいもといちごを栽培する可動式の畑に囲まれた、成長する農業カフェ。万博開幕時に植えたさつまいもの苗は、閉幕の10月まで大切に育てられる。

他にも、KANSAIマルシェ「関西お祭りマルシェ ICHIBIRI-AN」内やJAPANマルシェ「北陸お花ごっつおマルシェ」内グルメブースにも出店。さらに、フードトラックエリアには「くくる」、らぽぽ」のキッチンカーを登場させるなど5つの異なる形態で営業し、万博グルメを大いに盛り上げている。



ぶりぶりの大たこが入った
たこ焼き。タコ型トレーは
卵の殻を一部再利用▶



◀大阪・関西万博会場限定
「らぽぽミyakミyak焼き」

▲らぽぽの一番人気商品
「焼きたてポテトアップルパイ」

LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ【卒業生インタビュー】

●万博を通じて、たこ焼きを世界へ

「今回で4度目の万博なんです」と、永尾さんは同社と万博のかかわりを話し始めた。

最初の万博参加は1990年に開催された国際花と緑の博覧会(大阪・鶴見緑地)。2度目は2005年の「愛・地球博」(愛知・長久手)だった。▲2010年 上海国際博覧会(日本産業館)「花博では、たこ焼きが大阪のローカルフードではなく全国に受け入れられること、愛・地球博では、タコを食べる習慣がない欧米の方にもたこ焼きを喜んでいただけることが分かりました」



3度目は2010年開催の上海国際博覧会だったが、永尾さんは当初、海外まで出店することは考えていなかった。それを翻意させたのが、小淵恵三内閣で経済企画庁長官を務めた故・堺屋太一氏との出会いだった。堺屋氏といえば、かつての通商産業省官僚時代に、1970年の大阪万博を担当。以来、国内外の万博に関与、自らを“万博に取り憑かれた男”と称したこともある人物だ。

「僕の夢は、たこ焼きを世界に広めること」と話す永尾さんに、初対面の堺屋氏は「分かりました。一緒に上海に行きましょう」と力強く誘ったのだった。

こうして、上海万博で民間企業が集まる日本産業館に「くくる」「らぽぽ」を出店。来場者をあっと言わせてやろうと、道頓堀店の巨大な立体タコを日本から運んで壁面に飾った。結果は大成功。半年間の会期中に実に50万食のたこ焼きを販売。閉幕後には上海市内での出店が実現し、現在は同市内に3店舗を展開している。

「今でも道頓堀の店には、タコの看板を目印に『上海万博で食べた』と、中国の方が来られます」

●4度目の万博は、未来志向の挑戦の舞台

上海万博を通じてたこ焼きを世界に広げる確かな一歩を踏み出した永尾さんが、4度目の万博で試みたのは、いもたこなんきんの未来、つまり白ハト食品工業が進もうとする未来を示すことだ。

そのために、フードコートでは、たこ焼お助けロボット、配膳ロボット、IoTスマートゴミ箱、再生容器を採用するなどサステナブルな新しい試みを取り入れた。「らぽぽファーム〜おいも

社員たちにもいつも言っているんです。空振り三振OK。見逃し三振NG。思いのままにバットを振ってこうって



永尾 俊一 ―ながお としかず
■1963年大阪府生まれ。白ハト食品工業株式会社代表取締役社長。会社経営デザイナー。関西大学第一中学校、第一高等学校を経て、1986年関西大学法学部卒業。大学4年の時、「タコヤキハウスKU/KU/RU」道頓堀店(現 たこ家道頓堀くる本店)を開店。1987年、「おいもさんの店 らぽぽ」を開店。2010年から現職。道頓堀商店会副会長。関西大学評議員。

とイチゴとりんごのFarm to the Table〜」では、万博終了後も生き続ける鉄コンテナを使ったさつまいも畑、まっすぐ上に伸びて場所を取らない高密度栽培のりんごの木など、効率的な農業技術を店頭で実践。また、JAPANマルシェでは北陸の食材を使ったたこ焼きや、さつまいもの新メニューを開発投入するなど、数々の新たな店づくりに挑戦している。

こうした取り組みは、万博のためだけに間に合わせたものではない。例えば、茨城県行方市に開設した20万坪の体験型農業テーマパーク「らぽぽなめがたファーマーズヴィレッジ」、風評被害に苦しんでいた福島県楳葉町に建設した世界一の大規模甘藷貯蔵施設など、いもたこなんきんを通じた農業振興、地域創生、観光活性化につながる白ハト食品工業ならではの活動の経験と成果が生かされている。

●万博を楽しめ。万博は人生を変える

このように、万博を契機に事業を発展させ、夢を実現させてきた永尾さんが、万博効果として最も期待するのが、実は人づくりだ。

「堺屋先生は言われました。『万博で、見たもの、聞いたもの、食べたもの、感動したものが、その国のナショナルスタンダード(未来の当たり前)になる。万博をやるのは本当に大変だが、成し遂げた者にはとてつもない未来の可能性が見えてくる。万博は人生を変える』と。当社が最終的に目指すのは、利益ではなく、強く生き抜く力を持った人材とチームをつくることです」

サステナブルフードコートに5月、関大万博部とのコラボブースが期間限定で設けられ、らぽぽと共同開発した商品などが販売された。そこで見た万博を積極的に体験しようとする学生たちの姿に、永尾さんは「もっともっと万博を楽しんでほしい。チャレンジしてほしい。彼らの中から日本を変える人が現れるかもしれない。社員たちにもいつも言っているんです。空振り三振OK。見逃し三振NG。思いのままにバットを振ってこうって」と目を細めた。

万博はここから始まる未来を感じられる場所。次世代の若者がどう育つのか、日本の農業・食・地方はどうなるのか。永尾さんの描く未来像が万博会場の白ハト食品工業の店々から見えてくる。



▲「らぽぽファーム〜おいもとイチゴとりんごのFarm to the Table〜」



▲焼き菓子「ミyakミyak焼き」をトッピングした
らぽぽ「おいもといちごのプレミアムプレート」



▲関大万博部×らぽぽコラボスイーツ

LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [卒業生インタビュー]



▲万博ステージでは「神在月のこども」と表裏を成す次回作『神去月のけもの』制作発表が行われた

「できる」と信じ切ることで 未来の扉は開かれる

日本の魅力を世界へ届けるコミュニケーションの創造

● cretica universal.LLP 代表

四戸 俊成 さん —総合情報学部 2003 年卒業—



四戸 俊成 —しのへとしなり

■1980年千葉県生まれ。2003年関西大学総合情報学部卒業。広告代理店勤務を経て、2009年にcretica universal.LLP(クリティカ・ユニバーサル)を設立。映画や音楽、漫画のほか、さまざまな領域でのコミュニケーション・デザインを手掛ける。原作とコミュニケーション監督を務めた映画『神在月のこども』(2021年)は、「モントリオール国際リース賞映画祭2021」で最優秀監督賞など主要5部門にノミネート。また、2022年にNetflixを通じて全世界に配信を開始すると、1週間で約161万人の鑑賞者数を記録して、同サービスの「Global Top10(他言語)」で8位に輝いた。2025年4月に大阪・関西万博で開催された「Japan Expo Paris in Osaka 2025」では、コンセプトディレクターを務めた。



日本のみならず世界が心待ちにした大阪・関西万博が4月に開幕した。そのオフィシャルプログラムでもあるテーマ

ウィークで、トップバッターのイベントとなったのは「Japan Expo Paris in Osaka 2025」。コンセプトディレクターを務めたのは、全世界で話題となったアニメーション映画『神在月のこども』の原作・コミュニケーション監督を務めた四戸俊成さんだ。アニメーション(映画)やエキスポジション(万博)を駆使して日本の魅力を世界へ届ける——その思いを熱く語ってもらった。

●アニメーション(映画)で日本から世界に向ける コミュニケーションを

「“感動”とは、“感”じて“動”くこと。その日、その場所で何かを感じたことによって翌日の動きが変わる。その行動が起きて初めて感動だと思う。そんな“感動”を届けられる仕事をずっと目指しています」。

映画『GODZILLA ゴジラ』(2014年)や『シンデレラ』(2015年)など作品のプレミア演出から、東名阪はもとより愛知県豊田市や岡山県倉敷市などの街や舞台と作品のタイアップまでの“コミュニケーション・デザイン”を手掛けてきた四戸俊成さん。

「コミュニケーション・デザインとは、商品や作品、街など魅力のあるものと、その魅力をまだ知らない人たち、その両者間のコミュニケーションを組み立てる仕事です。その魅力と出会い、興味を持ち、観たり足を運んだり買ったりしてもらうための階段作りをします」。

この仕事を続ける中で芽生えたのは、世界がまだ知らない日本の魅力を届けたいという思い。日本全国の神が出雲に集うとされる旧暦の10月を全国では「神無月」といい、出雲では「神在月」と呼ぶ。島国の根と記される島根・出雲のそうした神話や伝承を題材にして、映画を企画・原作し、監督を務めた。四戸さんが目指したのは、アニメーションで日本の魅力を発信し、その場所を訪れてもらうこと。日本という島国自体のコミュニケーションへの挑戦だった。

東京から出雲へ。日本列島を横断し、少女が駆け抜けるロードムービー『神在月のこども』は2021年に全国約200館でロードショー、翌年からNetflixで全世界へ向けて配信を開始し、2025年4月時点でおおよそ420万人が鑑賞するという偉業を遂げた。

●エキスポジション(万博)で世界から日本を見る コミュニケーションを

四戸さんはこのコミュニケーションを進化させるべく、「観光立国」という旗印にも見合うよう、次回作は官民プロジェクトを通してより広い世界へ日本の魅力を届けたいと考えた。

経済産業省の知人に連絡を取ったところ「日本の魅力を世界に届ける」取り組みへの共感はすぐに得られた。その後、話が発展する中で、同省が主管する大阪・関西万博でのコミュニケーション・



©2021 映画『神在月のこども』製作御縁会

できないと思われている世界や社会のラインを越えるには、できると信じ切ることで、それが未来への扉を開ける術になります。



プランを求められることに。そこで四戸さんは、フランスから「Japan Expo Paris」を招致して、官民で取り組んできたCOOL JAPANを世界視点で再発見しようというアイデアを提案。自身がその推進役を担うこととなった。



「Japan Expo Paris」は、フランス ▲「Japan Expo Paris 2022」参加時の様子 ス・パリで毎年25万人以上を集める世界最大規模のジャパンフェス。アニメや漫画・ゲームなどのコンテンツだけでなく、食や武道・伝統文化など、日本に関する多彩な魅力を世界に紹介する総合博覧会だ。

過去に原哲夫ほか国民的漫画家から作品を預かって出展をした経験や、自身の作品を携えて出演を重ねた経歴もあり、同イベントには何度も参加していた。その際に創業者との親交を深めていたこともあって日仏共創となる難解な招致を叶え、大阪・関西万博会場での「Japan Expo Paris」日本開催を果たすコンセプトディレクターに就任した。

万博でのイベント名は「Japan Expo Paris in Osaka 2025」。公式プログラムであるテーマウィーク(世界との文化共創ウィーク)のフロントランナーとして省庁連携催事に位置づけられた。パリでのイベントに足を踏み入れた参加者は、その盛況ぶりから日本人であることに誇りを持つという。今回は日本で開催される万博において、国内にいながらも同様の体験を得られる機会にしたいという思いから、コンセプトテーマを「COOL JAPAN FROM PARIS —世界で一番日本が脈打つエキスポ初上陸」とした。

万博会場では、1万6,000人を収容できるEXPOアリーナ「Matsuri」でアーティストライブなどのショーステージを、4,000㎡

のEXPOメッセ「WASSE」でブース出展やコンテンツ展示などを催した。万博最大の催事場である2会場を同時に使用する大イベントは、現時点で会期内に類を見ないという。ベースとなるコンセプトの考案に始まり、実現するためのディレクションなど、数年をかけた官民・日仏で共に実施の最終地点まで運んだ四戸さん。

当日は約6万人の観客が来場し、メディアなどの掲載は約1,300媒体に及ぶ盛り上がりを見せたが、四戸さん自身は満足し切れなかった。「今回に限らず仕事の後にはいつも“悔しさ”が残ります。自分の中で時間や予算などのリミットを踏まえて“決着”がついた仕事でも、もっとできたんじゃないか、そんな気持ちで」。

しかし悔しさの中に手応えもあった。「僕たちのアニメーション(映画)と今回のエキスポジション(万博)、手法は異なるけど『コミュニケーションデザインで日本のリブランディングをする』という共通意識がありました。目指すところは同じと、覚悟を持って取り組む中で得られた手掛かりはありましたね」。

●前作と表裏を成す次回作『神去月のけもの』に挑む

さらに万博のステージには出演者としても登壇。そこで制作発表したのが次回作『神去月のけもの』。前作の制作時など、四戸さんは「一生に一作品しか映画は作らない」と公言していた。しかしある時、前作は主人公が自分の「好き」をもう一度信じるという物語だが、そもそも「好き」をまだ見つけられていない人や、見つけても追求できなかった人の方が実は多いのではないかと思います。「その人たちが一歩を踏み出さないと世界や社会は変わらない。だから、その人たちが勇気を持って踏み出せるような、前作と表裏を成す作品を作らなきゃと思い立ったんです」。

●ジェネラリストを育てる学部カリキュラムに感謝

大学時代の総合情報学部での幅広い学びは今の仕事でも生かされているという。プログラミングにメディア論、認知科学、哲学……と多岐にわたる授業。「良い意味でスペシャリストだけでなくジェネラリストも育てるカリキュラムだった。映画作りは様々な分野を統合する総合芸術と呼ばれるものであり、万博も同様。そのすべてに目を配る立場の自分には、大学時代の学びが自然と生かされていると思います」。

最後に学生へのメッセージを尋ねたところ、講演会などでいつも必ず伝えるのだけど、という前置きで「何事も“できる”と思った方がいい」という言葉をくれた。原作を手掛けることも、監督としての映画作りも、万博での国際イベント招致も、すべて初めての経験だったが、「日本の魅力を世界に届けたい」、「必ず届けられる」、と四戸さん自身が最後まで信じ続けたからこそ周りの人も同じように信じ、結果その思いは叶えられた。

作品が完成し、自分の名前が入ったエンドロールを見ながら思い出したのは、同じ作品を何度も観たり、映画雑誌を読み耽ったりしながら、将来は映画にかかわる仕事ができればと思うほど映画に夢中だった高校時代だったそう。

「できないと思われている世界や社会のラインを越えるには、できると信じ切ることで、それが未来への扉を開ける術になります。できると信じ抜くことで何でも実現するはずですよ」。

KANDAI NEWS

■関大ニュース

2025年4月、ビジネスデータサイエンス学部開設



フォトスポットで撮影する学生たち



関西大学が14番目の学部として新設したビジネスデータサイエンス学部の1期生396人が、4月2日、吹田みらいキャンパスに初登校した。

ビジネスデータサイエンスとは、ビジネスの発想でデータを利活用し、社会の問題解決に生かす学問。新入生たちは授業開始に備えてオリエンテーションを受講し、カリキュラムガイダンスやキャリア支援などの説明に熱心に耳を傾けていた。また、学舎エントランスホールのフォトスポット前で記念撮影を行ったり、オープンスペース(コモンズ)で新たな友人たちと談笑したりして楽しむ様子も見られた。

2025年度入学式を挙行。新入生の集い・歓迎行事も開催



4月1日、2025年度関西大学入学式を千里山キャンパスで挙行し、約7,000人の新入生が新たな門出を迎えた。

また、3月30日には一人暮らしを始める新入生を対象に、学生同士の交流を促す「関西大学新入生歓迎の集い2025」も開催した。今年は特別企画として、本学が舞台の映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』(4月25日公開)の主演・萩原利久さんがサプライズ登場し、大きな歓声が沸き起こった。

さらに、4月2～4日には、オリエンテーション実行委員会運営のもと、新入生歓迎オリエンテーションを開催し、各クラブ・サークルがブースを設けて新入生を勧誘。パフォーマンスも披露され、キャンパスは活気に満ちあふれた。



▲関西大学新入生歓迎の集い2025
 ▲新入生歓迎オリエンテーション



UNIVAS SSC認証を取得



関西大学は、一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)が制定する安全安心認証「UNIVAS Safety and Security Certification (UNIVAS SSC)」を取得した。本認証は、安全で安心な大学スポーツ活動の環境整備を目的とし、UNIVASが策定した「安全安心ガイドライン」の評価項目を満たす大学や競技団体に付与されるもの。認証取得により、スポーツ活動中の事故や不祥事が発生した際の迅速な対応や、原因調査、現状復帰にかかる費用に対する補償が自動付帯され、さらに学生が安心してスポーツに取り組める環境を整備する。

陸上競技部・前田さんが女子10000mV 重量挙げ部・竹林さんも個人選手権V

陸上競技部 4月25日、2025日本学生陸上競技個人選手権大会が神奈川県・レモンガスタジアム平塚で行われ、女子10000mで前田彩花さん(商学部3年次生)が33分10秒60で優勝した。7月にドイツで行われるワールドユニバーシティゲームズ(WUG)への派遣標準記録を突破し、日本代表に内定した。



重量挙げ部 5月16～18日、大阪府・タケダハムはぴきのコロセアムで開かれた、第71回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会の、女子81kg級で竹林小夏さん(人間健康学部2年次生)が優勝。同45kg級で辻も香さん(法学部4年次生)が準優勝、池田さくらさん(文学部4年次生)が3位、同64kg級で秦萌々菜さん(文学部1年次生)が3位に入賞した。また男子89kg級で下坂尚也さん(法学部4年次生)が準優勝し、同部全体として実力と勢いを示す大会になった。

梅田キャンパスで体験型防災イベントを実施

阪神・淡路大震災から30年と、大阪・関西万博2025開催を機に、4月12日に「うめだ防災フェス in 関西大学梅田キャンパス」を開催した。

本イベントは、大阪梅田地区の住民・企業・自治体と関西大学が連携し、地域全体の防災意識向上とつながりの強化を目指すもの。当日は、うめだ南海トラフ研究プロジェクトにかかわる社会安全学部教員による「防災×ビジネス×まちづくり」のトークセッションや、阪神・淡路大震災に関する書籍刊行イベント等が展開され、体験型ブースには学生団体KANDAI DPEや関大万博部も参加。会場は約400人の来場者で賑わいを見せた。



▲トークセッション



▲AED講習



▲非常食を活用したレシピ(関大万博部)

KANSAI UNIVERSITY SOCIAL MEDIA

